

別紙2 業務委託内容

は一部委託

業務	項目	委託業務例
洗淨・滅菌業務	器械及び器材の洗淨	<ul style="list-style-type: none"> ● 各洗淨機の日常点検と運転前確認・準備を行う <ul style="list-style-type: none"> ✓ 各洗淨機（網・ノズル・フィルター・台車）・シンク・棚の清掃 ✓ 洗淨液の作成・交換 ✓ 潤滑剤の作成・補充 ● 器械及び器材を、特徴別に仕分けする ● 仕分けした器械及び器材を、構造・汚染状況・使用用途などに応じて洗淨し、確実に汚れを除去する ● 軟性内視鏡の漏水テストを行う <ul style="list-style-type: none"> ※リークを認めた場合、浸漬を避けて洗淨し修理取次ぎを行う ● 器械の防錆・潤滑効果保持のため、必要に応じて潤滑剤処理を行う ● 洗淨及び潤滑剤処理済の器械・器材を乾燥させる ● 手術室の緊急洗淨依頼に対応する ● 基本は、日本医療機器学会「医療現場における滅菌保証のガイドラン 2010」及び各装置・器材の取扱説明書に準じて行う
	器械及び器材のメンテナンス	<ul style="list-style-type: none"> ● 洗淨・乾燥された器械類の点検を行う <ul style="list-style-type: none"> ✓ 鋼製器械 → 汚れ・錆の有無、噛み合わせ確認 ✓ 剪刀類 → 切れ味の確認 ✓ 新規購入器材 → 新品処理後、器械に付着する油分等の除去 ● 汚れ・錆・熱やけした器械は再処理する ● 微細な器材は、拡大鏡などを用いて洗淨および機能点検を行い、適否を判断する ● 洗淨・滅菌のすべての工程において業務の質を確保し、器械類の破損・故障や部品の紛失などが発生しないよう適切に管理する
	組立・包装など	<ul style="list-style-type: none"> ● 洗淨するために分解した器材を元の状態へ組立てる ● 組み立てが終了した器材を 包装・パック・またはコンテナに収納し、滅菌行程へ移行する <ul style="list-style-type: none"> ✓ 滅菌方法に適した包装材と、器材に合う適切なサイズ及び強度の包装材を選択する ✓ 滅菌剤が浸透しやすく、器材が破損しないように包装する

		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 滅菌コンテナ及びセット・単包器材の内部には、最も滅菌剤が浸透しにくいと考えられる場所に、病院指定の化学的インジゲータを使用する ● 滅菌処理不要の洗浄・乾燥された医療器材類を、器械戸棚へ整理する
	シーラの日常管理	<ul style="list-style-type: none"> ● 始業時に点検を行う <ul style="list-style-type: none"> ✓ 設定温度の確認 ✓ シールの適否確認幅と密着状態 ✓ 印字の鮮明度、印字内容の確認
	滅菌準備・管理	<ul style="list-style-type: none"> ● 毎稼働日の始業時（初回使用前）に各滅菌機の日常点検と清掃を行う <ul style="list-style-type: none"> ✓ 動作確認 ✓ 各滅菌機清掃・台車や籠の清拭 ✓ フィルターなどの交換 1 回/月 ● ハイスピード（簡易型滅菌装置）の日常点検・管理 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 動作確認 ✓ 滅菌器内清拭 ✓ 水・手袋交換 1 回/週 ● 器械・器材の特性及び使用用途に応じた適切な滅菌方法を選択する <p>※滅菌手段を複数選択出来る場合は、可能な限り高圧蒸気滅菌を選択する</p> ● 積載時は、蒸気が浸透しやすく滅菌物がドレーンの影響を受けにくいように配慮する ● 滅菌完了後、器材が確実に滅菌されたことを確認する ● 手術室の既滅菌器械・器材・単品を指定された保管棚に収納する ● 緊急用手術器械は、診療科術式別セット毎に専用の棚に保管し、緊急時の取り扱いに備える ● 既滅菌物の収納時は、先入れ先出しなど滅菌有効期限の古いものから取り出せるように配置する ● 滅菌物保管庫棚は、定期的に有効期限や包装材料状態のチェックなど、有効期間管理を行う ● 期限切れ間近の物品は、委託者の指定する手順で再処理する ● 保管庫・既滅菌室内の人の出入りには、適正な手順を確保し、衛生管理を行う ● 滅菌物を要求に応じて供給する <ul style="list-style-type: none"> ✓ 手術看護師に依頼された滅菌物（借り物器械含む）を所定の場所に配送する

		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 手術室既滅菌庫からの搬出状況のみて適時供給・補充する ● 既滅菌器械セット・器材・単品を指定された棚に収納する ● 依頼された滅菌物（借り物器械含む）を所定の場所に搬送する ● 滅菌有効期限の確認を行い、期限切れの滅菌物を適正に処理し、滅菌する ● 手術中の緊急滅菌依頼に対応する ● 終業時、コンプレッサーの水を抜く
モニタリングと管理		<ul style="list-style-type: none"> ● 洗浄機・滅菌器付属計器の記録及び、生物学的インジケータ（BI）・化学的インジケータ（CI）を用いて監視を行い、滅菌条件が達成されたことを保証する ✓ 洗浄機の工程確認は、洗浄工程毎に、洗浄機に設置された計測器による記録データを確認し、書面にて記録を行う ✓ 洗浄機能評価を1回/週行う ✓ 物理的滅菌確認は、滅菌工程毎に、滅菌装置に設置された計測器による滅菌記録データを確認し、書面にて記録を行う ✓ 生物学的滅菌確認は、最も滅菌困難とされている場所に生物学的インジゲータを積載し、滅菌終了後に培養結果の測定を行い、結果を書面にて記録する（高圧蒸気滅菌・過酸化水素ガスプラズマ滅菌・フラッシュ滅菌については毎稼働日の初回運転時、酸化エチレンガス滅菌に関しては毎回行う） ✓ 化学的滅菌確認は、全ての滅菌包装内部に、病院指定のCIを使用する ✓ 全ての包装外部に、プロセスインジゲータを使用する ✓ 高圧蒸気滅菌器は、週1回以上ボウイ・ディックテストを行い、結果を書面にて記録する ● 滅菌器付属計器の監視記録及び、BI・CIの全てが合格している時に滅菌総合判定を「適」とする ※合格しないインジゲータがあれば、適否の判断を明確にして記録に残すとともに、手術室師長へ速やかに報告する ● 滅菌総合判定が「適」であり、かつ包装材器及びその他異常認められない時に「適」と判断して払い出す ※基本的にはBIの判定が出てから払いしを行うが、判定前に払い出す時は、所在を明確にすること
	記録の管理	<ul style="list-style-type: none"> ● 洗浄工程を確認できる記録を5年間保管する ● 滅菌工程及び滅菌物の管理を確認できる記録を5年間保管

		<p>する</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 法令に定められているものを除き、業務遂行に必要な設備点検記録を5年間保管する ● EOG作業記録を、30年間保管する
	中央材料室設備の保守業務	<ul style="list-style-type: none"> ● 逆浸透装置の管理を行う ● 各種洗浄装置及び滅菌装置の日常点検、管理を行う ● 各種洗浄装置及び滅菌装置の運転異常の有無を確認し、故障した場合は、修理若しくは修理取次ぎを行う <p>※可能な限り日本医療機器学会「医療現場における滅菌保証のガイドラン 2015」及び各装置、器材の取扱説明書と適切な方法を用いて実践する</p>
	リコール対応	<ul style="list-style-type: none"> ● 既滅菌物の不良が確認された場合の対応及び緊急時の洗浄・滅菌体制を文書化して、病院に提示する ● リコールの予防措置を行う <ul style="list-style-type: none"> ✓ 毎回滅菌判定をし、記録する ✓ 既滅菌物は、BI・CI及び滅菌器付属計器の監視記録の結果判定後に払い出す（手術室器材と緊急時を除く） ✓ 滅菌業務手順及び業務手順書を作成し、遵守する ✓ 滅菌装置などの機器メンテナンスを励行する ● 滅菌不良が疑われる場合の対応 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 滅菌工程において、不具合が生じた場合は速やかに手術室師長へ報告する ✓ 滅菌不良かその他トラブルかの判断をする ✓ 必要に応じてリコールを実施する ✓ 再発防止策として、原因を明らかにし今後の対応を検討する <p>※滅菌不良の可能性が残る場合は、リコール対象範囲を記載した資料を基に、業務従事者が回収を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 該当装置の使用については、修理後のテスト等によって滅菌状況を確認した後に使用を開始する
	鋼製器械の定数管理	<ul style="list-style-type: none"> ● 院内鋼製器械の定数を確認し、管理する ● 手術室鋼製器械の定数を確認し、管理する ● 各種器械数量及び業務量データ等に基づいて、器材類の過不足を報告する
手術室洗浄・滅菌業務	使用済み器材の返却受付	<ul style="list-style-type: none"> ● 手術室看護師より回収依頼を受ける ● 汚物処理室で手術室看護師と共にカウント用紙と器材を照らし合わせて数量の称号を行い、カウントが適合した器材を受け取る <p>※再生処理を行わない物品の廃棄は看護師が行う</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ● 看護師からの申し送り事項を確認する ※至急依頼器材がある場合は、指定した時間に使用できるよう、優先的に洗浄を行った後、必要時滅菌工程に移行する ● 器械台・ワゴン・などは、清拭後所定の場所に返却する
	手術器械及び器材の洗浄	<ul style="list-style-type: none"> ● 器械の破損・不足のないことを確認後、適切な方法で手順に基づいて確実に洗浄を行う ● 器械及び器材の洗浄・メンテナンス参照
	術式別器械セットの作成	<ul style="list-style-type: none"> ● 全ての術式の基本医療器械セットメニューと追加医療器械セットメニューを作成する ✓ 委託者指定の手順でセット指定を受ける ✓ セットを作成する <ul style="list-style-type: none"> ・セット内容に適したコンテナまたは器械板を準備する ・「セットメニュー表」を読み上げながら、セット別の注意事項を遵守してセットする ・セット時は、器械の性能をチェックしながら行う（切れ味・汚れ・噛み合わせなど） ・作成終了後、他の作業者とダブルチェックを行う ・包装後「滅菌日と有効期限・科名・作成者名・不足器械」を表示する（委託者指定のセットは不足器械の無いようにする） ・セット内容に適した方法で、指定の時間までに滅菌する ✓ 指定された用紙に「セット名・不足器械・セット者名」を記入し提出する ● 既滅菌室の緊急セット・閉創セットの定数を確認し、不足しているセットを作成・滅菌する ● 当日緊急手術の器械セットを指定時間までに作成・滅菌する
	単品として既滅菌処理し、在庫を必要とする物品の管理	<ul style="list-style-type: none"> ● 術式別器械セット以外の器材を、病院が指定する方法によりセット組及び包装・滅菌を行う ✓ 滅菌保管が必要な器材は、使用後滅菌処理する ✓ 在庫を必要とする物品の作成・管理をする ✓ 器械・器材に適した包装方法を選択する ✓ 滅菌包装には滅菌年月日を印字し、包装や滅菌の種類により滅菌有効期限を明確にする ✓ 物品名と作成者を表示する ✓ 器械・器材に適した滅菌方法を選択する ※緊急及び時間指定がある場合は、依頼に対応する ● 既滅菌器材を指定された棚に収納する ● 依頼された滅菌物（借り物器械含む）を所定の場所に搬送する

		<ul style="list-style-type: none"> ● 既滅菌物の有効期限確認と再処理を行う
	衛生材料の準備・管理	<ul style="list-style-type: none"> ● 指定の衛生材料を作成する ● 既滅菌衛生材料の定数を確認し、不足数を滅菌・補充する
	借用器材の受付・返却	<ul style="list-style-type: none"> ● 使用後の器械は分解・洗浄方法を確認の上、洗浄する ※借用器械は洗浄・乾燥工程時、他の器械と区別する
		<ul style="list-style-type: none"> ● 看護師から依頼された借用器械の滅菌前準備・滅菌・搬送を適切に行う
手術室内業務	術前準備	<ul style="list-style-type: none"> ● 无影灯の清拭を行う ● 保温庫・保冷库の清掃と貯留水の処理を行う ● 術式に応じて使用するME機器・吸引装置・体位固定器材・ワゴン・器械台・点滴台・ウォームタッチなどを準備・配置する ● 術式に応じて手術台を準備する ● 適正な数量の足台を設置する ● 手術室内に目視で汚染箇所がないか確認し、発見した場合は速やかに対処する
	術中補助	<ul style="list-style-type: none"> ● 培養検体・標本の搬送を行う ● 手術中に緊急で必要となった再生滅菌器材の搬送から洗浄・滅菌・供給を行う ● 手術中に緊急で必要となった輸液・診療材料の搬送を行う ● 手術中に必要となったME機器の搬入および搬出を行う ● 手術後に患者が手術室から帰室先へ戻るためのベッドを準備する
	術間術後清掃	<ul style="list-style-type: none"> ● 手術終了部屋の担当看護師又はリーダーからの清掃依頼に対応する ● 医療廃棄物及び一般廃棄物を回収し、所定の場所に搬送する（医療機器上にゴミが残っていないか確認する） ※廃棄物か判断不能な場合は、担当看護師に確認する ● ゴミ袋とペールBOXをセッティングする ● 使用後のシーツ・タオル・抑制帯などを回収し、異物等の確認を行う ● 吸引装置の使用済みボトルを廃棄および交換し、吸引器の汚染を清拭する ● 麻酔関連器材（マスク・喉頭鏡ブレード・コネクターなど）を洗浄室に搬送する ● 手術台に取り付けられているアクセサリ類を外し、清拭後所定の位置へ収納する ● 汚染防止用ディスポシートが床に貼ってある場合は剥がし、床に落ちている縫合糸等のゴミを取り除く

		<ul style="list-style-type: none"> ● 清拭清掃を行う（血液汚染部位はマイクレールで清拭後、0.05%次亜塩素酸ナトリウム液で清拭する） <ul style="list-style-type: none"> ✓ 手術室壁面および手術室の床面 ✓ 手術台・枕など ✓ ME 機器 ✓ 足台・椅子・点滴架台（表面だけでなくキャスター周辺も清拭） ※必要時洗浄する ● モニター用ケーブル（血圧計・心電図・温度計など）・コード類を清拭・収納する ● 麻酔器および吸引装置のパオピングを取り外し清拭・収納する ● 機器類の操作部および照明等のスイッチなど、頻回接触面を清拭する ● 次の手術に必要無い機器を所定の位置へ片付ける ● 未使用器械・器材・診療材料を片付ける ● 常備機器・備品類の定数を確認する ● チェックリストを元に、最終確認を行う
	手洗い場	<ul style="list-style-type: none"> ● 使用済みブラシの回収および補充 ● 手洗い場および周辺の清掃・排水口のゴミ回収を行う ● 手洗い場のごみを回収する ● 手指消毒剤の残量確認・交換補充を行う ● 手洗い装置の作動確認等を行う ● 滅菌タオルの残量確認および補充・ディスペンサーの作動確認を行う ● 滅菌タオルのフィルター交換を行う 1回/週 ● 必要時、手洗い場の床を乾式モップで清掃する
	標本室	<ul style="list-style-type: none"> ● 前日使用した器械を回収し、ビニール袋に入れて洗浄室に運ぶ ● シンク・棚・冷蔵庫の清掃・環境整備を行う ● 環境をマイクレールで清拭する ● ペールBOX・ゴミ袋を交換する ● ディスポタオルを補充する ● 標本瓶を作成する ● 検体保存容器の在庫数を確認し補充する ● ホルマリンの残数を確認し、師長に請求依頼する ● 標本を病理室に提出する（依頼書と標本のID・氏名・数量を照合する）
	汚物処理室の清掃	<ul style="list-style-type: none"> ● シンクの清掃・環境の清拭・ゴミ収集を行う ● 院内洗濯材料を回収する

		<ul style="list-style-type: none"> ● 使用後の丸穴シーツを処理する ● ランドリーケースの搬送・交換を行う
	受付・ラウンジの清掃	<ul style="list-style-type: none"> ● シンクの清掃・環境の清拭・ゴミ収集を行う ● 1回/月程度、冷蔵庫・水切り籠の清掃を行う
	スリッパ・マスクの洗浄	<ul style="list-style-type: none"> ● 下駄箱の汚染スリッパを回収し、下駄箱清掃を行う ● 回収したスリッパと前日に使用したマスクを、洗浄機の各プログラムで洗浄する ● 洗浄・乾燥されたスリッパ・マスクを収納する
	院内洗濯材料の処理	<ul style="list-style-type: none"> ● 院内洗濯材料を洗浄・乾燥する
	手術室助手業務	<ul style="list-style-type: none"> ● 書類類をコピーする ● インプリンターの日付を変更する ● 消耗品を請求する 1回/週 ● SPD から納品された診療材料・消耗品などを所定の場所に収納する ● 消耗品を補充する（ペーパータオル・ビニール袋） ● 医療廃棄物容器を準備する ● 洗浄・乾燥後の麻酔関連器材を、麻酔カートに収納する ● リネン類、ユニホーム類の点検・収納・整理を行う <ul style="list-style-type: none"> ✓ 使用済みリネン等の洗濯物の収集・運搬 ✓ ポケット内の異物点検 ✓ 洗濯済みリネンを所定の位置へ収納 ● 清拭タオルを作成・補充する ● 薬品関連業務を行う <ul style="list-style-type: none"> ✓ 薬品カートの入れ替え・運搬 ✓ 薬品伝票提出と払い出し、薬品の運搬・収納 ● 輸血用ケースを搬送する ● その他のメッセンジャー業務
病棟・外来業務	使用済み器材の回収・搬送	<ul style="list-style-type: none"> ● 器材等の請求や滅菌依頼等に係る受付・窓口対応等の業務 ● 使用済みの医療器材等の回収 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 各部署で使用した後の医療器材は、原則として洗浄・消毒は行わず（予備洗浄スプレーの散布を推奨）専用の蓋付き容器に入れるなど、汚染拡散防止策の指導を行う ✓ 伝票を用いて回収する器材を部署担当者で確認する ✓ 回収は、密閉できる専用カートにて行う ✓ 使用済み器材を回収・搬送する際は、感染の発生源にならないよう、周辺環境汚染・作業員への危険性を排除する ※万一感染が発生した場合は、その経路を特定し再発を防止すること ● 使用済み器材の構造、汚染状況、使用用途等に応じてウオ

		<p>ッシャーディスインフェクターやその他洗浄装置、または 用手作業により洗浄を行い、確実に汚れを除去する</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 洗浄が完了した器材は、特性に応じて防錆処理を行った後、 病院の指定する方法により確実にセット組及び包装を行う ● 器材の特性に応じて、高圧蒸気滅菌装置・EO G 滅菌装置・ プラズマ滅菌装置を用いて確実に滅菌を行う ● 各物品に適した滅菌処理後、既滅菌の状態では保管棚へ収納 し、管理・点検を行う <ul style="list-style-type: none"> ✓ インジケータにより滅菌の確認と、乾燥状態や滅菌バック の破損等を確認する ✓ 院内既滅菌器械・器材・単品を院内滅菌物保管庫に収納 する ✓ 既滅菌物の収納時は、先入れ先出しなど滅菌有効期限の 古いものから取り出せるように配置する ✓ 滅菌物保管庫棚は、有効期限や包装材料状態のチェック を行い、有効期間管理を行う ✓ 滅菌有効期限切れ間近の物品は、委託者の指定する手順 で再処理する ✓ 保管庫・既滅菌室内の人の出入りには、適正な手順を確 保し、衛生管理を行う ● 伝票を用いて滅菌済み器材の確認を行い、搬送用カートに 積載する ● 院内滅菌物払出時は、滅菌期限・滅菌バック破損等を再度 確認し、払出一覧に基づき部署別に確実に配送する <ul style="list-style-type: none"> ✓ 供給・搬送業務において、病院や各部署における衛生管 理手順・方法と不整合のないよう適正な方法・手順・搬 送ルートなどを確保する ✓ 伝票あるいはセット表を用いて供給する器材を部署担当 者と確認する
--	--	--

⑨記載されていない事項や、業務の内容・方法などの詳細については、委託者と協議する

委託業務例を基に、作業手順を記した作業マニュアルを作成・遵守する

作業マニュアルには、手術中（患者入室から退出まで）の各手術室に立ち入らないことを基本とし、
 業務を遂行するため、またはやむを得ず手術室に立ち入る必要がある場合は、手術室看護師へ了解を
 得ることを記載する